

私立短期大学図書館協議会

会報

発行者：安部 叁 巳
 発行所：私立短期大学図書館協議会
 〒151 東京都渋谷区代々木3-22-1
 文化女子大学短期大学図書館内
 電話：03-3299-2195

Bulletin of Junior College Library Association

1997. 9 No. 41

平成9年度総・大会並びに創立20周年記念式典

—無事終了—

日時 平成9年5月16日(金) 13:00~14:00
 会場 紀伊国屋サザンシアター(東京・渋谷区)
 出席 39館 委任状243館 計282館

菅原春雄理事(文教大学女子短大部)の司会により開会され、始めに安部会長(聖徳大学短大部)から次のような要旨の挨拶があった。

本年度で協議会も創立20年となり、一つの大きな節目を迎えることになった。短大図書館を取巻く情勢は相変わらず厳しいものがあるが、そういう中でも各地区協議会の活動が活発に行われていることは、非常に喜ばしいことである。本年度は特に、全国研修会が近畿地区の主催により行われる予定であり、このような形で今後も本部と地区との連携により、協議会の活動が推進されることを期待したい。

引き続き議長に、旭 啓之氏(中九州短期大学図書館)を選出、記録人に吉岡啓彦氏(元相模女子大学短期大学部図書館)を選出して議事に入った。

議題1. 平成8年度活動報告(平井理事)

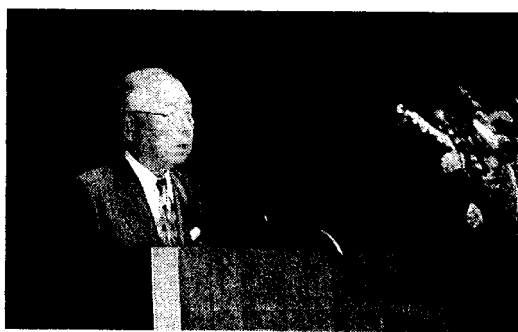
(1) 会勢(平成9年5月1日現在)

北海道地区	21館(-1)
東北地区	23館(+3)
関東甲信越地区	104館
東海・北陸地区	46館
近畿地区	76館(+1)
中・四国地区	30館
九州地区	39館(+2)
計	338館

注：()内は平成8年度増減館数

(2) 本部活動報告(各地区活動については会報を参照)

①全国理事会開催(平成8年5月30日)



②平成8年度総大会開催(平成8年5月31日)

総会終了後、講演会開催

③平成8年度短期大学図書館全国研修会開催

11月21-22日 日阪社会議室(詳細は会報40号及び「短期大学図書館研究17号」1997を参照)

④「短期大学図書館研究」第16号-特集：新しい時代の利用教育-の刊行と加盟館への配布

⑤「会報」第39、40号の発行と加盟館への配布

⑥「私立短期大学図書館総覧1996」の刊行と加盟館への有料頒布(429館掲載 B5判 871頁 700部印刷) ⑦全国7地区協議会への活動助成及び東海・北陸地区への出版助成、東北地区総会・研修会への本部役員出席

⑧本部役員会の8回開催

以上の活動報告を承認

議題2. 平成8年度決算報告及び監査報告

(1) 平成8年度会計決算・総覧特別会計決算報告

(馬場理事)

別掲の会計決算資料による報告を承認

(2) 平成8年度監査報告(古賀監査)

書類照合審査の結果、適正処理を確認との報告を承認

議題3. 平成9・10年度役員選出

- (1) 会長選出
菅並茂樹氏(三島学園女子短大)より、安部現会長を推薦との提案があり、これを承認
- (2) 監査選出
関、古賀現監査を本部役員会より推薦との提案があり、これを承認
- (3) 会長推薦理事承認
安部会長より、本部役員として平井、平塚、馬場、菅原、高梨現理事を推薦し、入江関東甲信越地区理事には慣習として本部役員会を援助して頂きたいとの提案があり、これを承認
- (4) 顧問推薦
安部会長より、鈴木現顧問の他、吉岡前理事を顧問として推薦したいとの提案があり、これを承認

議題4. 平成9年度活動方針案審議(平井理事)

- ①全国理事会の開催(5月15日)
②総会の開催(5月16日)

③創立20周年記念行事の実施

- 1) 記念式典の開催(5月16日)
2) 記念パーティの開催(5月16日)
3) 「私立短期大学図書館協議会20年小史」の刊行(5月16日)
4) 20周年記念論文の募集(締切: 9年12月、発表: 10年7月)
④短期大学図書館全国研修会の開催(近畿地区主催: 11月20日-21日)
テーマ「参考業務と書誌」心理学/民族学
⑤会報41、42号の発行
⑥「短期大学図書館研究」第17号の発行
9年7月末発行、特集テーマ: 私立短期大学図書館協議会20周年の歩みと21世紀への展望
⑦地区活動への助成及び地区行事への本部役員派遣
⑧本部役員会の開催(年間7~8回)

議題5. 平成9年度予算案審議(馬場理事)

平成9年度会計予算案及び総覧特別会計予算案を審議の上、承認

平成8年度一般会計決算

(収入の部)

単位: 円

勘定科目	予算	決算	差異	備考
会費収入	4,995,000	5,100,000	105,000	340館×15,000円
研修会参加費	1,080,000	1,189,000	109,000	会員70名、非会員7名、懇親会48名
賛助会費収入	150,000	208,867	58,867	8社
出版物売上収入	250,000	288,200	38,200	紀伊国屋書店買上 283,200円他
雑収入	2,688	2,719	31	利息
繰越引当金	3,200,000	3,200,000	0	総覧積立金
前年度繰越	800,312	800,312	0	
合計	10,478,000	10,789,098	311,098	

(支出の部)

単位: 円

勘定科目	予算	決算	差異	備考	
事業費	年次総大会	100,000	98,414	1,586	日本橋丸善会場・講演会
	全国研修会	1,110,000	906,453	203,547	日販ビルにて
	会報	200,000	154,470	45,530	39、40号
	紀要	1,250,000	1,323,735	-73,735	短期大学図書館研究第16号
地区交付金	地区交付金	1,665,000	1,700,000	-35,000	340館×5,000円
	地区助成金	770,000	540,000	230,000	7地区×一律70,000円他
	I F L A 会費	40,000	40,000	0	日本図書館協会納付
会議	本部役員会	180,000	173,065	6,935	8回開催
	全国理事会	190,000	156,096	33,904	於文化女子大学
運営費	交通費	210,000	120,000	90,000	本部役員へ
	消耗品費	80,000	55,811	24,189	
	通信費	200,000	116,742	83,258	
	事務局費	120,000	90,000	30,000	各業務担当理事へ
	地区参加費	100,000	100,000	0	九州地区へ2名×30,000円他
雑費	63,000	6,000	57,000		
総覧刊行引当金	4,200,000	4,200,000	0	総覧特別会計へ振替	
次年度繰越金		1,008,312	-1,008,312		
合計	10,478,000	10,789,098	-311,098		

平成 8 年度総覧特別会計決算

(収入の部)

単位：円

勘定科目	予算	決算	差異	備 考
総覧刊行引当金	4,200,000	4,200,000	0	
賛助会費収入	0	240,000	240,000	広告収入
売上収入	1,559,000	1,272,484	-286,516	加盟館及び紀伊国屋書店買上
合 計	5,759,000	5,712,484	-46,516	

(支出の部)

単位：円

勘定科目	予算	決算	差異	備 考
印刷費	4,350,000	3,944,905	405,095	正誤表含む
送料	170,000	217,104	-47,104	
封筒代	40,000	58,080	-18,080	
次年度繰越金	1,199,000	1,492,395	-293,395	
合 計	5,759,000	5,712,484	46,516	

平成 9 年度一般会計予算

(収入の部)

単位：円

勘定科目	予算	備 考
会費収入	5,070,000	338館×15,000円
賛助会費収入	150,000	広告収入等
出版物売上収入	250,000	紀伊国屋書店紀要買上含む
雑収入	1,688	利息
20周年記念事業引当金	1,285,000	総覧特別会計より振替
前年度繰越	1,008,312	
合 計	7,765,000	

(支出の部)

単位：円

勘定科目	予算	備 考	
事業費	年次総大会	120,000	紀伊国屋サザンシアターにて大阪開催支援費、役員出張費41、42号短期大学図書館研究第17号
	全国研修会	200,000	
	会報	200,000	
	紀要	1,450,000	
地区交付金	地区交付金	1,690,000	338館×5,000円7地区一律70,000円、刊行助成等日本図書館協会納付
	地区助成金	770,000	
	I F L A 会費	40,000	
会議費	本部役員会	200,000	
	全国理事会	200,000	
運営費	交通費	210,000	
	消耗品費	80,000	
	通信費	200,000	
	事務局費	120,000	
	地区参加費	100,000	
雑費	63,000		
20周年記念事業引当金	1,285,000	会場費、記念品、賞状、講師謝礼、記念パーティ費等	
予備費	837,000		
合 計	7,765,000		

平成 9 年度総覧特別会計予算

(収入の部)

単位：円

勘定科目	予算	備 考
売上収入	308,000	紀伊国屋委託売上金
前年度繰越金	1,492,395	
合 計	1,800,395	

(支出の部)

単位：円

勘定科目	予算	備 考
20周年記念事業費	1,285,000	一般会計へ振替
次年度繰越金	515,395	
合 計	1,800,395	

地区活動報告 — 第40号以降 —

〈北海道地区〉

1. 平成9年度総会

日 時：平成9年5月9日（金） 14時～16時

場 所：釧路短期大学・図書館

出席者：8館出席（委任状11館）

〈議題〉

- ① 平成8年度活動報告（承認）
- ② 平成8年度決算報告（承認）
- ③ 平成8年度決算監査報告（承認）
- ④ 平成9年度活動方針案について（承認）
- ⑤ 平成9年度予算案について（承認）
- ⑥ 会長校（事務局）および役員校の交替について
会長・鳥居良四郎（釧路短期大学附属図書館長）
及び事務局・釧路短期大学については、既決。
幹事校：北海道文教短期大学、帯広大谷短期大学（承認）
監査校：國學院短期大学、北海道文理科短期大学（承認）
- ⑦ 加盟館の脱会について
静修短期大学（現・札幌国際大学短期大学部）
脱会。
- ⑧ 大学・短大・専門図書館相互協力懇話会委員について
北星学園女子短期大学・武本昇三氏に委嘱（承認）
- ⑨ 研究部会の正式発足について
現在テストケース段階であり、改めて役員会および総会での承認を得た後、正式発足となることを確認した。
- ⑩ その他
 - (イ) 平成9年度の地区研修会について
事務局より札幌圏の短期大学図書館に会場を提供していただきたいとの要請があった。
 - (ロ) 「北海道図書館連絡会議」について
北海道自動車短期大学・土橋幸恵氏に委嘱（承認）

2. 平成9年度研修会案内

メインテーマ

利用者サービス～今われわれは利用者のために何ができるのか

サブテーマ

- ① レファレンスツールの使い方を確認しよう
～レファレンスマラソン
- ② インターネットを身近なものに
～広がる情報源

(1) 日時および会場

平成9年8月22日（金）～23日（土）

会場：北星学園女子短期大学及び北海道武蔵女子短期大学

(2) 研修内容

1日目（22日）

- ① テストケース研究部会の活動報告（会議室等で）
内容：「図書館利用教育」をテーマに、1年間の活動報告とその成果を披露する。
- ② レファレンスマラソン（図書館閲覧室で演習）
内容：グループ（2～3人）演習とする。10数題の質問に取り組むが、一問ごとチェックポイントにて判定をうけ、その正確さと時間を競う。

2日目（23日）

- ③ インターネット入門
（情報処理室で演習、パソコン50台整備）
内容：インターネット入門、図書館とインターネット（ホームページの利用、各大学図書館OPAC利用の実際）、Eメールの実際等について端末を操作して学習する。

〈東北地区〉

平成9年度も引き続いて三島学園女子短期大学附属図書館が地区理事館（事務局）を務める。

1. 平成9年度事業計画の策定、予算の編成

本年度も、総会、研修会の開催を9月中旬～下旬に予定しているため、事務局作成の事業計画案、予算案を加盟館に送付して承認を得るという方法を取った。事業計画の概要は次の通り。

- ① 総会（1回）
- ② 地区研修会（1回）
- ③ 地区活動報告書等の発行
- ④ 幹事会

2. 加盟館名簿の作成、送付

地区の加盟館名簿を作成し、地区加盟館に送付した。加盟館数は6月現在で23館。なお、各館から送られてきた職員名簿を見ると、昨年度と比較して職員数（非

常勤を含む)が減少した館が数館ある。

3. 総会、研修会に関するアンケート調査

昨年度の総会で、総会、研修会の持ち方について若干の協議を行ったことから、開催時期等に関する簡単なアンケート調査を行った。その結果、開催時期としては、「いつでもよい」に続いて9月を、曜日としては週の後半を希望する回答が多かったため、本年度も9月の木～土曜日に開催することにした。

4. その他

創立20周年記念功労者表彰について、本部に地区功労者を推薦した。

〈関東・甲信越地区〉

〈幹事会〉

第6回 1997年3月4日 14:00～17:00

(目白学園総合図書館)

- 総会・研修会準備について
- その他

第7回 1997年5月6日 14:00～17:00

(目白学園総合図書館)

- 総会・研修会最終確認
- その他

平成9年度第1回 1997年6月24日 14:00～17:00

(目白学園総合図書館)

- 平成9年度第2回研修会について
- その他

〈総会〉

日時：1997年5月22日 13:～14:00

場所：文化女子大学

見学：文化学園服飾博物館 15:30～16:30

〈研修会〉

平成9年度第1回(講演会)

日時：1997年5月22日

場所：学術情報センター 米澤 誠氏

演題：「短大図書館にとっての学術情報センター」

〈その他〉

2月 加盟館・館員名簿発行

〈東海・北陸地区〉

1. 平成9年度第1回幹事会

日時：平成9年4月24日(木) 13:00～15:15

場所：市邨学園短期大学

出席者：9館14名

議題：(1)役員校について

(2)平成8年度事業報告・決算報告および監査

について

(3)平成9年度事業計画案・予算案について

(4)平成9年度総大会・研修会について

(5)平成12、13年度会長校について

(6)研修・会報委員会

2. 平成9年度情報交換・研修会

日時：平成9年6月5日(木) 16:30～19:30

会場：犬山館(総大会の前日開催)

出席者：22校29名

3. 平成9年度第2回幹事会

日時：平成9年6月6日(金) 9:15～9:45

会場：犬山館

出席者：9館15名

議題：(1)平成9年度総大会議事運営について

(2)平成9年度研修会について

(3)会報29号について

(4)その他

4. 平成9年度総大会

日時：平成9年6月6日(金) 10:00～17:00

会場：犬山館

出席者：32館40名

欠席：14館より委任状受理

〈総会〉

開会

会長挨拶：市邨学園短期大学図書館長 田中 収 氏

議長選出：内規第4条により開催地区幹事

名古屋自由学院短期大学図書館長

川村 敏三 氏

議事：

(1)会勢報告

46館

(2)承認事項

a) 平成8年度事業報告、決算報告および監査報告

b) 平成9年度役員承認

c) 平成9年度事業計画案および予算

(3)報告事項

北陸部会報告

(4)その他

閉会

会長挨拶：市邨学園短期大学図書館長 田中 収 氏

〈講演会〉

講師：市邨学園短期大学 生活文化学科講師

日比野 光敏氏

演題：北陸のすし・東海のすし～食の文化的諸相～

〈見学会〉

犬山城、犬山文化史料館など城下町散策

〈近畿地区〉

〈幹事会〉

第4回 1997年4月17日(木) 10:00~12:00

第1回 1996年6月5日(木) 13:00~14:00

全国理事会報告

第2回 1997年6月17日(木) 14:00~17:00

第2回研修会(見学会)下見打ち合わせ

〈全国研修会準備委員会〉

第1回 1997年1月16日(木) 13:30~16:30

第2回 1997年2月14日(木) 13:30~16:30

第3回 1997年3月13日(木) 13:30~16:30

第4回 1997年4月17日(木) 13:30~16:30

第5回 1997年6月5日(木) 14:00~16:30

〈総会〉

日時:1997年5月6日(火) 13:30~14:40

場所:大阪信愛女学院短期大学

参加館:37館 48名

挨拶 大阪信愛女学院短期大学図書館長

常野トシ子氏

議長選出 奈良佐保女学院短期大学 仲井道子氏

議事1. 平成8年度活動報告

2. 平成8年度会計報告・会計監査報告

3. 平成9年度役員について

会長館 大阪信愛女学院短期大学図書館

(担当:谷嶋正彦)

幹事館 滋賀女子短期大学図書館

(担当:中澤奈緒美)

幹事館 金蘭短期大学図書館

(担当:田中佳恵)

幹事館 関西女子短期大学図書館

(担当:四方明美)

監査館 大阪成蹊女子短期大学図書館

(担当:牛山令子)

4. 短期大学全国研修会について

5. 平成9年度事業計画

a. 会勢について

b. 研修会について

6. 平成9年度予算について

7. その他

〈研修会〉

第4回

日時:1997年2月27日(木) 13:30~16:30

場所:大阪信愛女学院短期大学

参加館:44館 59名

第1部 講演会

テーマ:大学図書館の自己点検・自己評価

講師:前川和子氏(大谷女子大学図書館)

大学設置基準の改正、自己点検・自己評価をめぐる様々な動きと論文、四つの大学図書館での実例、などについて多くの参考資料を交えた具体的な講演であった。各館において自己点検・自己評価を実施する場合に大いに参考となるだろう。

第2部 他校への質問事項(承合事項)

図書館運営上の疑問・問題点など、他校ではどのようにしているのか、日頃聞くことのできない質問を出し合って討議した。

第1回

日時:1997年5月6日(火) 15:00~16:30

場所:大阪信愛女学院短期大学

参加館:44館 56名

テーマ:電子図書館時代における司書

講師:谷口敏夫氏(光華女子大学人間関係科助教授)

①電子図書館と司書、②電子司書とデータベース、③電子司書と館としての図書館、④電子司書と利用者、などについての講演があった。電子図書館時代の司書には、資質や教養や専門知識など、これまで以上に高い水準が求められている。

〈中国・四国地区〉

1. 役員会

日時:平成9年8月7日(木) 11:00~12:00

場所:下関東急イン

出席者:3館

議題:総会提出議案他について審議した。

2. 総会

日時:平成9年8月7日(木) 13:30~14:30

当番館:下関女子短期大学図書館

場所:下関東急イン

出席者:17館 27名

議事:

(1) 報告事項

ア. 私立短期大学図書館協議会理事会・総会報告

(2) 審議事項

ア. 平成8年度事業・会計決算・会計監査報告

(承認)

- イ. 平成9年度事業計画・予算案(承認)
 ウ. 次期(平成10・11年度)当番館について
 下記の3館が行なうこととなった。
 会長館: 四国大学短期大学部図書館
 幹事館: 高知学園短期大学図書館
 監査館: 土佐女子短期大学図書館

3. 研修会(I)

日 時: 平成9年8月7日(木) 14:50~17:00

当番館: 下関女子短期大学図書館

場 所: 下関東急イン

出席者: 17館 27名

内 容: 下記の承合事項について話し合った。

- ア. 学生の希望図書について
 イ. 新入生に対して、図書館利用に関するオリエンテーションは、どのような方法で行っているか。
 ウ. 利用者である学生の読書傾向の把握や、購入希望図書の調査を、どのような方法で行っているか。
 エ. 新聞・一般雑誌類の保管期間とその廃棄の方法。

4. 研修会(II)

日 時: 平成9年8月8日(金) 9:00~12:00

当番館: 下関女子短期大学図書館

会 場: 水産大学校

出席者: 17館 25名

内 容: 実務研修 水産大学校図書館見学
 ・コンピュータ・システム ・移動式開架書庫
 ・その他

〈九州地区〉

平成9年度総会・研修会

期 日: 平成9年4月24日

会 場: 鹿児島市 グリーンホテル錦生館

当番館: 鹿児島女子短期大学附属図書館

加盟館: 39館中29館から45名が出席

欠席館: 8館

◇ 総会

- 1) 新加入館紹介・長崎女子短期大学図書館
 ・九州帝京短期大学図書館
 ・長崎短期大学図書館
 2) 脱会館報告・九州女学院短期大学図書館
 3) 各館紹介
 4) 会長館事業報告

5) 平成8年度決算報告 監査報告

6) 平成9年度予算案審議

7) 協議事項: 「九州地区私立短期大学図書館協議会会則の改正および内規の制定に伴う、各ブロック間のアンバランスについて」
 決定にはいたらず、会長館より原案を作成し、アンケート調査を行うこととした。

8) 次期当番館選出(筑紫女学園大学・短期大学図書館)

9) その他会長館より報告

私立短期大学図書館協議会20周年記念行事における表彰功労者を2名推薦した。

◇ 研修会

研究発表

- ・西南女学院大学・短期大学図書館 西川 忍 氏
 「コンピュータ・ネットワークとこの一年」
 ・鹿児島純心女子短期大学図書館 川路 孝昭 氏
 「図書館職員の専門性について」

平成9-10年度(第11期) 役員

鈴木英二氏と新たに吉岡馨彦氏も顧問に

本部役員

会長	安部 益巳(聖徳大学短期大学部)
監査	古賀 実生(千葉経済大学総合図書館)
"	関 篤(和洋女子短期大学)
理事(事務局)	平井 紀子(文化女子大学短期大学部図書館)
"(会計)	馬場 敏子(相模女子大学短期大学部図書館)
"(紀要)	平塚 悦子(跡見学園女子大学短期大学部図書館)
"(")	高梨 章(関東学院女子短期大学部図書館)
"(広報)	菅原 春雄(文教大学女子短期大学部)
"(研修)	入江 忠昭(和洋女子短期大学図書館)

地区理事

北海道地区	鳥居良四郎(釧路短期大学図書館)
東北地区	菅並 茂樹(三島学園女子短期大学付属図書館)
関東甲信越地区	入江 忠昭(和洋女子短期大学図書館)
東海・北陸地区	田中 収(市邨学園短期大学図書館)
近畿地区	常野トシ子(大阪信愛女学院短期大学図書館)
中・四国地区	井上 和幸(徳山女子短期大学図書館)
九州地区	旭 啓之(中九州短期大学付属図書館)
顧問	鈴木 英二(元千葉経済短期大学)
	吉岡 馨彦(元相模女子大学短期大学部図書館)

平成8年度全国研修大会に参加して

木村 富美子

昨年の4月より図書館に勤務することになったため、初めて研修会に参加した。「参考業務と書誌」を基に毎回テーマを変えているということで、今回は「社会福祉」と「環境問題」というテーマで2日間の研修が行われた。

まず、今回の研修の軸となる書誌の定義についての講演があったので、改めて考えてみると、使用頻度の多い用語でありながら、類義語が多いこともあり、その違いをきちんと把握していなかったので大変勉強になった。

「社会福祉」は『しあわせ』の学問を支えるために」というサブタイトルで講義された。社会福祉というと高齢者や障害者に対するものばかり考えていたため、社会福祉が「社会全体の幸福・繁栄」という意味であることを考えれば、幸せを求める人達全てに関する問題になると思う。そのうち近づいてくる将来のことではなく、今私達ひとりひとりがいつも心の隅に留めておくことなのだと思う。同様に「環境問題」もあらゆる地域でそれぞれの問題を抱えている事を、通常忘れてしまっていると反省した。

「社会福祉」、「環境問題」とも日本において将来に渡る身近なテーマだけに、その一つ一つの意味について深く考えていなかったことを、先生方の講義を聞いて改めて感じた。図書館員としてだけでなく、人間としての心構えを学ぶことができたと思う。私の勤務する図書館は、大学と短大とで共有になっており、大学に社会福祉学部を新設する予定なので特に社会福祉は興味あるテーマだった。

またこの研修のメインでもある演習は、課題を地域別に分かれた9つのグループ毎に調査し、発表する形で行われた。私の所属するAグループは、各自課題を調査し、

最後にグループ内で話し合い、調査結果をまとめることになった。そこで自分なりに少ない知識を駆使して調査した後、それをグループ内で話し合った。すると、違う資料を基に調査した人がいたり、同じ資料から違う解釈をしてみたりと、様々な討論が交わされた。

この演習で最も強く感じたことは、参考業務は正解は一つとは限らないという事だ。同じことを調査する時でも、使う資料を工夫すると能率の良い調査ができたり、一つの答えからまた新たな疑問が出たりなど、限らない学習ができる。使用者の希望に少しでも近づけるよう、私達図書館員も日々勉強していかなければならないと思う。

また、懇親会や演習を通じて、各短大図書館の司書の方々と知り合う機会が持てたことは、まだまだ新米の私にとってなよりの勉強になった。ベテランの司書の方にいろいろ教えて頂いたり、各図書館の問題などを聞くと共通の悩みがあったりして、研修でしか味わえない交流を満喫できた。

今回の研修に参加して、毎日の雑務に追われてしまい、本来の図書館の姿を忘れがちだったことを思い出すことができた。また、学生時代にお世話になった恩師二人に卒業以来初めて再会でき、その当時に思い出しながら楽しく有意義な学習ができた。すっかり教えたことを忘れていた私を見て、先生は心配になられたかもしれないが、これからは勉強し続けようという心構えはあるということと少し安心して頂きたい。

また機会があるば参加したいと思う。貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

〈昌平図書館（東日本国際大学・いわき短期大学）〉

〈短大図書館関係5団体懇談会開催〉

平成9年3月24日 日本図書館協会 14:00～

出席者団体 公立短期大学図書館協議会
私立短期大学図書館協議会
日本私立短期大学協会：図書館研究委員会
東京都私立短期大学協会：図書館協議会
日本図書館協会短期大学図書館部会

まづ、主催者側として日本図書館協会短期大学図書館

部会長（安部 登巳）よりこの会の趣旨のおよびその発端はもり・きよし会長の提案によりこの組織は短大図書館同志の団体なので行事等重ならないよう、またお互いの情報交換をしようということで今日まで継承されている、との挨拶があった。つづいて各団体代表者の自己紹介並びに各団体の96年度活動報告および97年度の活動予定の報告をし互いに情報を交換し実りある成果をあげた。

一 本 部 報 告 一

〈会 勢〉 平成9年7月3日現在

北 海 道	20	近 畿	76
東 北	23	中国・四国	30
関東・甲信越	104	九 州	39
東海・北陸	46	計	338 館

〈新規加盟館〉

長崎短期大学図書館

〒 858 長崎県佐世保市椎木町 600

Tel 0956-47-5566

Fax 0956-47-5596

湘北短期大学図書館

〒 243 神奈川県厚木市温水 428

Tel 0462-50-8929

Fax 0462-47-8055

〈名称変更〉

土浦短期大学（関東・甲信越地区）

「つくば国際短期大学」に大学名変更（H.9.4.1）

静修短期大学（北海道地区）

「札幌国際大学短期大学部」に大学名変更

〈脱会〉

関東甲信越地区 身延山短期大学図書館

東京純心短期大学図書館

九州地区 九州女学院短期大学

「九州ルーテル学院大学」に昇格のため

〈会 議〉

平成9年度全国理事会

期日：平成9年5月15日 14:00～

場所：文化女子大学会議室

出席者：本部理事、地区理事

開会の辞

会長挨拶

出席者自己紹介

本部平成8年度事業報告

各地区活動報告

総会議題

1. 平成8年度活動報告
2. 平成8年度決算並びに監査報告
3. 平成9・10年度役員選出の件
会長選出

会計監査選出

会長推薦理事承認

顧問推薦

4. 平成9年度事業計画案

5. 平成9年度予算案

6. その他

議事終了後懇親会を開き翌日の総会へ向けて詳細について懇談した。

〈役員会記録〉

○平成8年度 第7回

期日：平成9年3月8日（土） 13:00～

場所：跡見学園女子大学短期大学部図書館

議題

1. 報告事項

(1) 会務報告

(2) その他

2. 協議事項

(1) 創立20周年記念事業について

(2) 「短期大学図書館研究」第17号の発行について

(3) 会報40号について

(4) その他

○平成8年度 第8回

期日：平成9年3月26日（水）14:00～

場所：文化女子大学図書館

議題

1. 報告事項

(1) 会務報告

(2) その他

2. 協議事項

(1) 創立20周年記念事業について

表彰内規に基づき地方・図書館研究の論文、本部役員より選考した。また総会・記念式典にともなう予算等検討

(2) 「短期大学図書館研究」第17号編集について

(3) その他

○平成9年度 第1回

期日：平成9年4月11日（金）14:00～

場所：文化女子大学図書館

議題

1. 報告事項

(1) 会務報告

(2) その他

2. 協議事項

- (1) 創立20周年記念事業について
 功労者の確認・当日ご案内通知・出欠状況
 賞状・記念品
 役割分担
- (2) 「短期大学図書館研究」第17号の編集・発行
 について
- (3) 平成8年度決算について
- (4) 平成9年度本部役員及び担当業務について
 - ① 会長再選・顧問・本部役員
 - ② 役割分担について
- (5) 平成9年度全国理事会及び総・大会について
 - ① 作成資料・当日の役割分担・その他
- (6) 平成9年度事業計画及び予算案について
- (7) その他

○臨時役員会

期日：平成9年5月2日

場所：文化女子大学 13:30～

滝沢 18:00～

打合せ：総会および20周年記念式典の詳細に
 ついて

○平成9年度 第2回

期日：平成9年7月3日(木) 14:00～

場所：跡見学園女子大学短期大学部図書館
 議題

1. 報告事項

- (1) 会務報告
- (2) その他

2. 協議事項

- (1) 総会・創立20周年記念行事の反省
 - ① 全般
 - ② 会計報告
 - ③ 表彰について
 功労者の決め方
 賞状
 記念品
 - ④ 役割分担
- (2) 「短期大学図書館研究」第17号の報告
- (3) 「短期大学図書館研究」第18号の編集・発行
 の件
- (4) 会報41号の編集・発行の件
- (5) 平成9年度活動日程予定
 - ① 役割分担の確認
- (6) その他

<20周年記念関係>

祝電 公立短期大学図書館協議会

専門図書館協議会

寄付金

森田清恵様(元東筑紫短期大学図書館) 10万円

神奈川県図書館学会様 1万円

鈴木英二様(元会長) 1万円

平成9年度 短期大学図書館 全国研修会(案内)

日程：平成9年11月20日(木)～21日(金)

会場：「ホテルアウィーナ大阪」

〒543 大阪市天王寺区石ヶ辻町19番12号

TEL 06-772-1441 FAX 06-772-1095

テーマ
 講師：①参考業務と書誌

丸本郁子氏(大阪女学院短期大学)

②心理学 (交渉中)

③民俗学 津田雄作氏

(神戸山手女子短期大学図書館)

参加費：本協議会加盟館 10,000円

非加盟館 15,000円

懇親会：平成9年11月20日(木) 17:00～19:00

「ホテルアウィーナ大阪」参加費 6,000円

編集後記

会報第41号ができましたのでお届けいたします。

今年5月本協議会が創立20周年記念式典を開催しました。それを記念し、今回その記念特集号としました。予定以上の関係者から原稿をいただきました。誠にありがとうございました。地方での活躍、本部での活動の思い出が記録されております。これら先輩たちの行動・実践を参考に自館での努力、他館との相互協力に邁進しましょう。今年の全国研修会開催は大阪で開催します。多数の参加者をお待ちしております。また例年のごとく「短期大学図書館研究」で原稿を募集しております。第18号は20周年記念特集で「短大図書館に関すること」をテーマに、また資料保存について(紙以外の資料の保存について)と一般論考を募集しております。積極的な投稿をお願いいたします。(すがわら)

創立20周年記念特集

創立20周年記念式典開催

1 記念式典 平成9年5月16日 14:00～

紀伊国屋サザンシアター

総合司会 入江忠昭氏（和洋女子短期大学図書館）
 会長挨拶 安部 登巳 本協議会会長
 来賓挨拶 栗原 均 日本図書館協理事長
 私立大学図書館協会会長
 公立短期大学図書館協議会会長

経過報告 菅原春雄 本協議会理事

功労者表彰 鈴木英二氏ほか16名

受賞者代表挨拶 網本正巳氏

祝電紹介 2通

論文（短期大学図書館研究に発表） 3名

*宮城 清 元仙台百合短期大学図書館

上沢田 浩 聖学院大学総合図書館

中村 克明 盛岡大学講師（元文教大学女子短期大学部図書館）

地区 10名

北海道地区

*佐々木純子 札幌大谷短期大学図書館

*若松 直子 元北海道武蔵女子短期大学付属図書館

東北地区

林 和子 羽陽学園短期大学付属図書館

関東・甲信越地区

毛利 和弘 元亜細亜大学短期大学部図書館

中林美智子 目白学園女子短期大学総合図書館

東海・北陸地区

夏目あさる 愛知淑徳短期大学付属図書館

*尾田真知子 北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館

近畿地区

*井上 宏二 平安女学院短期大学図書館

九州地区

*森田 清恵 元東筑紫短期大学図書館

*下条 瑞恵 福岡女子短期大学付属図書館

（当日出席者10名）

記念講演

「いま出版界で何が起きているかー

消費税・再版問題・電子出版」

講師 清田 義昭氏（出版ニュース社社長）

2 記念パーティ

新宿駅：マイシティ8階「プチモンド」

表彰状

殿

あなたは 本協議会の運営に長年に亘り携われ
 本協議会の発展のために多大な貢献をされました
 よって ここに感謝の意をこめてこれを賞します

平成9年5月16日

私立短期大学図書館協議会
 会長 安部 登巳

以下の16名の方々が表彰されました。おめでとうございます。

功労者表彰 16名 *印当日欠席者

本部関係 4名

鈴木 英二 元本協議会会長・顧問（元千葉経済短期大学図書館）

網本 正巳 元本協議会理事（調布学園女子短期大学図書館）

宮嶋 敬久 元本協議会監査・理事（元共立女子短期大学部図書館）

吉岡 磐彦 元本協議会監査・理事（元相模女子短期大学部図書館）



過去に感謝し 現在を確認し 明日に向かう

会長 安部 竺 巳

この20年は、短期大学図書館どうしお互いをより良く深く知り合い、より緊密に協力しあって歩いてゆこうという意気込みを確かめながらの20年でした。

20年と一口に言ってしまうとそれまでですが、苦しいこと、困ったことなどとともに組織活動として、予測もなかったような様々な課題に直面し、それらの解決に腐心する毎日の20年でもありました。そうした状況にあっても、目的へ向けて求心的な動きの結実を私たちは確信して、今日まで活動してまいりました。

その意味でいまこの20年を振り返れば、この20年はチャレンジと試練の毎日でありました。それを記念する今日の機会は、組織として、ふと立ち止まって現状を省み、今後の方向を確かめる絶好のチャンスを与えてくれたのではないかと受け止めています。

今の私たちは、あたかも峠に差し掛かった旅人、そんな姿としてなぞらえることができましょう。歩んできた道を振り返り、これからの道を確認、次の第一歩をしっかりと踏み出すこと、この20年の記念をこのようなもの

としてとらえたいと考えます。

今の時代はまことに不透明な時代と言われます。ポートを漕ぐときと同じで、行く手は見えない。だからこそ過ぎ去ったものをきちんと振り返る。そのことよってのみ確かな未来に向かうことができると考えるわけです。

組織の役員として、また様々な立場で運動を支えてこられた多くの先輩たちのご苦勞に深く感謝しながら、組織運動体としての連帯感を今後一層高め、活動の意義と使命達成への揺るぎない信念のもとに、より良い図書館のあり方を目指して全国の私立短大図書館のために、そしてそれが厳しい現実を目の前にした短期大学自体のために役立つことにつながればこの上ない喜びと考えているものでございます。

以上、感謝の気持ちを込めて、私立短期大学図書館協議会20周年を記念するに当たり開会のご挨拶と致します。ご静聴まことにありがとうございました。

(本協議会会長)

祝 詞

公立短期大学図書館協議会会長
(島根県立島根女子短期大学図書館長)

寺 本 喜 徳

若葉の色鮮やかな季節となりました。

私立短期大学図書館協議会におかれましては、創立20周年を迎えられ、本日でめでたく記念式典を挙げられましたこと、心からお祝い申し上げます。

私ども公立短期大学図書館協議会は、昭和46年設立されましたが、20年前に貴協議会・私短図協が創立されましたからは、同じく日本図書館協会短大部会のメンバーとして、交流を図り共に研鑽を積んでまいりました。実際の活動においては、質量共に優れている私短図協のお世話になることが多く、私共は様々な啓発を受けながら今日に至っております。

情報化・技術化・国際化が急進展を遂げている昨今、

大学図書館の使命や機能及び形態が急激に変容しつつあり、短大部会の役割も一層重要になってきておりますし、それを中心になって支える私短図協のご活動に期待するところ、まことに大なるものがあります。今後一段と連携を密にして、共に前進したいと存じます。

本来ならば、式典に出席してお祝いを申し上げるべきところ、欠礼して申し訳ございません。

ここに貴協議会のますますのご発展を祈念すると共に、私共に対しましても一層のご鞭撻を賜りますことをお願いして、お祝いの言葉といたします。

平成9年6月16日

20年の経過報告

菅原春雄

私立短期大学図書館協議会は正式には今年9月29日創立20周年を迎えます。この間の経過報告を簡単に紹介いたします。今振り返って見れば本協議会発足は昭和52年の秋大阪で開催された全国図書館大会短大分科会終了後私立短大関係者が集まり「私立短期大学図書館協議会創立総会」が開かれました。あれから20年、会員校は当初102館から今日では338館を数えるまでに発属してきました。これまで本協議会が発展してきたのは本部役員(理事)・地方理事・並びに加盟館の方々のご支援・ご努力の賜と存じます。その中心は会長をはじめ本部役員(理事)の日常業務の傍ら、われわれ弱者同志の短大図書館の現状を見るとき1978年の「日本の図書館」によれば蔵書数25,000冊、図書館職員2.3人、この現状から一步でも前進発展を望みつつ各役員熱意ある努力が今日まで続けられてきたものと思われまます。本当に感謝申し上げます。ちなみに1995年のデータ「日本の図書館」により蔵書数47,000冊、職員2.4名、学生1人当たりの数値では蔵書数3万9千冊、資料費10,084円、年間受入冊数1.6冊、貸出冊数4.2冊とやや増加の傾向にあります。ここで20年のあゆみを事務局体制から大きく3つ分けてみますと、

第1に

事務局は最初は、東京女子大学短期大学部図書館に事務局が置かれ、その仕事は安部現会長が図書課長でおられ渡辺敏一氏と一緒にやっておられました。日常業務傍ら、ときには残業や自宅に持ち帰って仕事した、とそれぞれ大変な業務でありました。この現実を何とかしようと、各(役員)理事の業務分担制をとりましたが(事務局・会計・会報・研修・紀要等)やがて事務局が(東京女子大学短期大学部が4年生大学への昇格改組のため)調布学園女子短期大学図書館に移りました。この間、会報・紀要「短期大学図書館研究」「加盟館職員名簿」「短期大学図書館総覧」の発行・全国研修会(コンピュータ研修・参考業務と書誌)など実施してきました。

第2に

事務局が調布学園女子短期大学図書館に移り(網本正巳氏が担当)しましたが館員2名のところで協議会事務担

当は彼ひとりで大変な熱意と努力であったと思います。改めてその労に深く感謝いたします。おそらくその当時館内業務はほとんどできなかったと思います。役員会の会場探しも自ら探して歩くなど。その後学内で学科増等で忙しく、事務局がつづいて相模女子大学図書館(吉岡馨彦担当)に移りました。

第3に

今までの2名だけの図書館から4年生大学と併設した図書館でベテラン吉岡氏が担当し、事務局体制、赤字財政の見直しからはじめ今日では健全財政にまでなっています。このことにつきましても感謝申し上げます。本部事業は従来どおり会報・紀要・研修会・役員会開催等つづけてきました。

今日では文化女子大学図書館(平井紀子担当)が事務局を担当しています。一方初代会長にもり・きよし氏(青葉学園短期大学教授・図書館長)、引退のあと会長代行有岡章氏(鶴見大学女子短期大学図書館事務長)二代目会長に鈴木英二氏(元千葉経済短期大学教授・図書館長)三代目現会長安部益巳氏(聖徳大学教授)が会長を務めています。運営は主として地区の自主的活動と本部との連携活動であります。協議会事業として出版活動として会報(年2回)・紀要「短期大学図書館研究」(年1回)を毎年定期的に出版しております。また「加盟館図書館員名簿」「私立短期大学図書館総覧」や協議会名称発行の「図書館員になるには」等発行しております。

全国研修会の開催は最初「コンピュータ研修」、つづいて「参考業務と書誌」をテーマに掲げ、毎年主題別テーマで開催するなど他団体では見られない事業をやっております。また本部では地方への活性化のため役員を派遣して講演会やアドバイスや情報交換をしております。詳しくはこの冊子「私立短期大学図書館協議会20年小史」および「短期大学図書館研究」第17号をご覧ください。そこには特集として協議会本部活動の20年、各地区の20年が詳細に述べてあります。なお、20年小史に2、3校正ミスがありますがご了承くださいませようお願いいたします。

(本協議会理事)

受賞者からの声

身に余る光栄に浴して

羽陽学園短期大学附属図書館 林 和子

この度、東北地区協議会のご推薦により私立短期大学図書館協議会20周年記念式典におきまして、功労者の表彰を賜ることができました。これも皆様のお力添えのおかげと心よりお礼申し上げます。諸先輩方を差し置いて、若輩の私がお受けするのは、まことにお恥ずかしい限りですが、東北地区の司書の方々を代表していただいております。私ごとになりますが、私が図書館に司書として勤めましてからちょうど20年になります。また本学の図書館が理事館をつとめさせていただいたのが私短図協10周年の時であり、不思議な巡り合わせを感じております。

東北地区協議会は、発足当時、仙台白百合短大の宮城清先生と山形女子短大の中村泰正先生が組織固めにご尽力なされ、長らくお二人よりご指導をいただいております。東北地区支部が今日あるのは、両輪として会を牽引なさってこられたお二人の力強いリーダーシップの賜物と思っております。10年前、お二人が相次いで会を

退かれ、かじ取りを失った東北地区支部はこのまま消滅してしまうのではないかというような危機を迎えたこともありました。何とかその最大のピンチを乗り越えられましたのは、鈴木前会長、安部現会長をはじめとする本部役員の方々の温かい励ましとご指導があったればこそでございます。また現在加盟館が23と、加盟率が8割近くまでになりましたのも歴代の理事館のご努力と加盟館のご協力があったからに他なりません。あらためて皆様方に感謝申し上げます。

小規模館の多い東北地区支部は、様々な悩みや問題を山積しておりますが、東北人の粘り強さで、ひとつひとつハードルを越えていけるものと信じております。微力ではございますが、これからも司書として日夜業務につとめながら私短図協の発展のためにお役に立ちたいと思っております。今後ともどうぞよろしくご指導賜ります様お願い申し上げます。

本当に有り難うございました。

星のような小さな火も野原を焼きつくす

平安女学院短期大学図書館 井上 宏二

短図協設立準備のため東京女子大学短大部図書館の安部先生が大谷女子短大図書館に来られたのは確か寒さの厳しい1977年1月か2月頃だったと思います。私立短大の全国組織の必要性を熱心に説明される安部先生のお話により、参加者一同が、ガストロブを囲みながら、うなずいていた情景が今でも時々走馬灯のように思い出されます。また、近畿地区の会長校を担当させていただいた時、浦和市での合国理事会懇親会での折、私が礼儀をもわきまえず、諸先輩方をさしおいて、上座に座りこんだにもかかわらず、今は亡きもり・きよし先生が嫌な顔ひとつせず私にお酒をついでくださったことも大きな思い出です。

こんな回顧的な文章を書いていると「井上お前も随分年をとったな」といわれそうですが、最近時たま研修会などに顔を出しても、参加者の顔ぶれが以前とは随分様変わりしており、この20年を実感します。

短図協からは随分恩恵を受けました。私にコンピュー

タに対する興味を持たせてくれたことも恩恵の1つですが、なにものにもかえがたい恩恵は他の短大の人々と知りあえたことです。研修会の参加や2年間近畿地区の会長校を担当させていただいたことを通じて、よき仲間とめぐりあえました。私の大きな財産となっております。

ところで、短図協のよさは、大上段にかまえず、日々地道に活動していることではないでしょうか。地味ではありますが、ここ何年か継続的に開催されている参考書誌についての全国研修会もそうですし、近畿地区において、何度か「近畿地区私立短大雑誌目録が上梓されたことも日常のつまかさねの結果だと思っております。

今では死語になった感がありますが、中国に「星のような小さな火も野原を焼きつくす」という諺があります。短大という小さな火同士の日々の団結と協力で、これからの10年（野原）を焼きつくしましょう。

創立20周年にあたって

聖学院大学総合図書館 上沢田 浩

この度、私立短期大学図書館協議会創立20周年に際し、功労者として表彰され望外の喜びであります。

私も今年で図書館生活30年、短大図書館に奉職して20年を経過し、本協議会とほぼ同じ歩みをしてきたことを思いますと、又別の感慨を覚えます。

振り返って見ますと、私が本協議会と関わりを持ったのは、創立5年目の1981年でした。『私短図協20年小史』で見ますと、1981年5月29日総大会がほろぶ中央研修センターで開かれ、現会長の安部先生が『これからの短大図書館のあり方』という講演をされました。その講演の冒頭でご自分の名前を『としみ』と板書されたのを鮮明に記憶しております。

その時の講演はアメリカのコミュニティ・カレッジに於ける図書館の状況についてのお話でした。ほどなく卒論でコミュニティ・カレッジをテーマにする学生が来館し、リアルタイムで『短大図書館研究』を提供し、大いに面目を施したものでした。

その後東京女子大の渡辺先生に牟礼に呼ばれ、関東・甲信越地区協議会の幹事として手伝うことになりました。

その時の先生の話は本協議会の基本コンセプトであろうと思います。

『短大図書館は規模が小さく、図書館のこと、本のこ

とを喋りたくとも、仲間がいないし、その機会もない。この協議会は、そんな思いをしている人たちに心ゆくまで、図書館のこと、本のことを話し合える会にしていきたい、一人しか館員のいない図書館には、交代の人を派遣してでも参加してもらいたいと思っている……』

これと同じ思いが各地区主催の研修会の熱気となり、今日の本協議会の隆盛となっていると思います。

関東・甲信越地区協議会の第1回合宿研修会は、前地区協議会長毛利先生の発案で、日光市で開催され、昼食もそこそこに話し合いに入り、夜12時をすぎても幹事部屋には電気がとまり、果てしなく話し合いが続きました。

この時から、合宿研修会は日本一ハードで、充実した研修会との評価が定着しました。

短期大学は今一番困難な時代に直面しています。この時こそ、短大図書館が結束し、人的、物的交流の輪を広げ、本協議会を盛りたてていく必要があると思います。

本学図書館もこの20年の間に色々なことがありました。図書館建築、コンピュータ、大学併設、その度に、本協議会の先達のアドバイスを受け、人的援助の恩恵を受け深く感謝しております。本協議会の益々の発展をお祈り申し上げます。

1997. 6. 21

祝20周年記念事業までの思い出

元亜細亜大学短期大学部図書館 毛利 和 弘

小生が、短期大学図書館協議会に初めて縁ができたのは、15年前のことである。上司が異動になり、図書館を離れたことから、小生に役割が回ってきた。しかも、上司が関東甲信越地区の会長をしていたので、その役目を継承するものであった。1年は、幹事として参加した後、会長を仰せつかることになり、13年の歳月を過ごした。

就任の時、加盟館の地域が関東甲信越地区という大変広い範囲であるため、交流がほとんどない現状を打破するため、各地域を巡り研修会を行うことを決め、実行に移した。合宿形式の研修会である。最初は、初めての開催ということもあり、予算化もしていない図書館がほと

んどであったため、各図書館の館長さんや事務長さんに直接お願いして、何とか人集めができ、日光にて開催することができた。それから、各県を一回りし、第2ラウンドのところまで小生も異動になり、辞任することになった。この間、多くの図書館の人達と交流ができ、また、各地域の図書館見学や郷土の良さに触れ、名士に会ったり、美味しいものに会ったり、楽しさと、教養がセットになったような、研修の連続であった。電話一本でレファレンスや相談もできるような交流のある関東甲信越地区協議会にもなった。県回りの中で触れ合った、人の暖かい触れ合いが私の宝であり、有り難い思い出である。

地区幹事としての年月

目白学園女子短期大学総合図書館 中林美智子

何年が過ぎたのでしょうか。設立の頃の熱意ある皆様や、大きく育てようとなさる皆様にひかれて時がたちました。関東甲信越地区の幹事としてというよりも、加盟館として当然の働きをしている内に長くなりました。その中で多くの方から学ぶことができ、心から感謝しております。

本部の仕事の後、地区担当に変わりました。毛利会長のもと、合宿研修会が始まった頃のことを思い出されます。地区内をまわることによって、今まで出席なさらなかった図書館の名前を見るのは嬉しいことでした。その後も出席を続けてくださることがあるからです。

現在は入江会長のもと、新たな研修会の道を探っています。短大図書館が支えあって向上してゆくために何が

必要か。加盟館の全員が何らかの関わりをもって会の存在を意識する、そのような活動を考えています。初期の頃、片山喜八郎先生、渡辺敏一先生を中心に開かれたパソコン研修会で、おずおずとキーに触れ、内心驚きの声をあげたのは私だけでしょうか。時代の前を見据えて開かれる研修会、日常業務と直結した講演会等々新鮮な感動を忘れずに臨みたいと思っています。

20年といえば成人です。でもそれは限りある人生で到達する一つの頂点であり、先を設定しない私立短期大学図書館協議会にとっては、常に新しい気持ですすむことが求められます。これからの会の隆盛を祈りつつ、新風を巻き起こす加盟館の皆様の活躍に期待しています。

菅原・安部両先生との出会い

盛岡大学講師 中村克明

私が菅原春雄先生、安部登巳先生にはじめてお会いしたのは、今から10年ほど前の1987（昭和62）年の4月であった。図書館情報大学大学院修士課程を修了し、文教大学湘南図書館に勤務するようになってから間もなくのことであった。

菅原先生とは確か、教職員の懇親会のような席でお会いしたと記憶している。先生とはそれ以来のお付き合いということになる。実は、先生には1985（昭和60）年7～8月の大正大学の司書講習会の時にお会いする機会があったのだが、その時は残念ながらクラスが違ったためにご指導を受けることができなかった。

今から振り返ってみると、先生には随分とご迷惑をおかけした。拙い論文を何編も読んでいただいたり、図書館関係の雑誌をご紹介していただいたりした（この時に『短期大学図書館研究』をご紹介しただけなければ、今回の功労賞受賞もありえなかった）。また最近では、例の図書館司書課程のカリキュラム改訂に際して、アドバイスをいただいた。私のような薄学の者が今こうして大学の専任講師として、教壇に立っているのも、全くもって先生のお陰であるといって決して過言ではない。この場をお借りして、先生のこれまでの御恩に対して厚く御礼申し上げる次第である。

安部先生には、菅原先生のお部屋でお会いしたのが最初であったように思う。安部先生は、私の大学院での恩師である竹内愨先生（現・図書館情報大学名誉教授）とアメリカでの先生が同じとのことで、図書館情報学に関する多くのことをお教えいただいた。また先生には、大変不躰な質問をしたりして、失礼なことを申し上げてきた。それにもかかわらず、先生はいつも笑顔で、丁寧にお応え下さった。それも、私のようなものを傷つけまいとして、言葉を選んでお話下さった。先生が図書館関係者の大勢から信頼され尊敬を得ているのも、学問に対する真摯な態度とその立派なご業績だけでなく、そのお人柄にあることは間違いないところであると思われる。

昨年の秋、安部先生にも、カリキュラムの改訂のことで、いろいろと貴重なご助言をいただいた。私の大学における改訂作業が比較的スムーズにいったのも、安部先生の適切なご助言があったればこそである。ここで、先生の学恩に厚く御礼申し上げると共に、今後ともご指導・ご鞭撻のほどをよろしくお願い申し上げる次第である。

最後になるが、菅原春雄先生、安部登巳先生のご健康と私立短期大学図書館協議会のますますの発展をお祈り申し上げる次第です。

あの頃を思う

愛知淑徳短期大学附属図書館 夏目 あさる

はやいもので今年は、私立短期大学図書館協議会が発足して満20年になります。

昭和52年9月、大阪で開催された全国図書館大会の場で、短大大会が設けられ、私立短期大学図書館協議会が誕生しました。

発足当初から愛知淑徳短期大学は東海・北陸地区図書館協議会の地区会長校を4期8年間勤めました。(5期目からは大垣女子短期大学へ引き継がれ、2年ごとの持ち回りとなりました。)

発足当時、地区加盟校は8校でした。入会の呼びかけに先立ち、地区の短大図書館の実態を知るためにアンケート調査をしたところ24校から回答を得ることができました。その結果短大図書館の現場での多くの問題と共通の悩みの数々を資料にまとめることができました。昭和53年10月、第1回の実務研究会「日本目録規則新版(予備版)への切り替えについて」を実施しました。この研究会の案内状を地区の非加盟校へも発送し、8校(13名)の参加を得て、加盟11校(19名)と併せて32名の出席者数となり、研究会は大変盛り上がりしました。この席では協議会の運営についても建設的な意見が出されて以後の活動に反映されました。

このたびは、協議会創立20周年の記念に思いも掛けない功労者として表彰されました。大変恐縮しております。皆様にお礼を申し上げます。特にお礼を申したいのは、中央にあって協議会発展のために研修会などの事業に献身的に尽くされ、水先案内の役割を果たしてこられた方々です。本当にありがたく感謝申し上げます。

さて、私は長い間勤め、目まぐるしく様変わりしてゆく図書館業務をつぶさに体験できたことは、喜ばしいことかどうか分かりませんが、貴重な体験であり、決して無駄にしたいとは思っていません。理想と現実の間において、徒労に終わったこともあります。安部先生はじめ、川崎先生、片山先生方が早くから指針を示してくださったお陰で苦難を乗り切る姿勢だけは持ち続けることができました。

図書館にとって、第三の波ともいえる電算化に着手し意識革命を余儀なくされました。複雑な業務の合理化と

当時の主な地区活動事業としては、東海・北陸地区の雑誌目録'82年版500部を刊行(昭和58年7月)して、本部事務局のお力添えで、全国への頒分(価格3000円)を行いました。年2回の会報発行と全国各地に先がけて昭和58年-60年に図書館実務講座5回を実施しました。

図書館実務講座の責任者であった林勇一先生が講座半ばで故人になられたことは協議会の大きな損失でした。会員各々の図書館実務向上と協議会の充実に果たされた故人の功績は特筆されるものと思います。あの頃の、骨身を惜しまず、地区協議会の充実のために情熱を傾ける先輩の姿、手探りで基盤作りに励んだあわただしい日々を懐かしく思い出します。

地区活動事業が盛り沢山で活動資金ぐりが大変でした。本部事務局、安部・渡辺両先生には活動資金の援助のご相談を何度も持ち込んで、こころよく応じて頂いたお陰で活動基盤が出来ましたことを、両先生には深く感謝しています。

現在、東海・北陸地区の加盟校は着実に増えて46校となり地区協議会の活動も充実してきました。会長校、役員校、会員のみなさんのご努力とご協力により、協議会活動が定着してきたことは一会員として大変な喜びです。

札幌大谷短期大学図書館 佐々木 純子

ダイナモ的な期待感があったものの、達成にいたる過程がこれほど負担になるとは正直思っていませんでした。しかし、だれかが成し遂げなければならないことでした。単純労働からの解放の結果として、利用指導や書誌的研究に力を注ぐはずが、すべて並行して実行しなければならず、不本意に終わろうとしています。ただ、独自のデータベースの構築とNACSIS-CATへの加入も着々と進められ、基本路線は確立できたと少し安堵する今日このごろです。

ただ、時代は短期大学教育を根本から問い直さなければならない厳しい状況にあります。図書館もまた、今一度、短期大学図書館の独自性を見据え、機械化と相互協力の二本柱のもとに全国ネットワーク構想の実現に向かって努力してゆかなければなりません。短期大学図書館は大学図書館のミニチュアではなく、「多様性」を持った「主体的学習の場」として、生涯学習の基地となること

は確かです。

今日は、変革の時代といわれる中であって不易流行、変わらないものがあります。「本」とは、「図書館」とはという永遠の命題を考える時、本質を忘れさえしなければ、本質を確認し続けるならば、その時その時の答えが適確に返ってくると思います。辻邦生が「本とは私には

この度、思いもかけず表彰という名誉なことに遭遇し、ただ面はゆく、どれだけのことを成し得たかと考えると、反省あるのみで、身の竦む思いです。しかし、図書館の仕事は組織体の仕事であって、チームワークの結果ともし直せば、職員みんなで頑強ってきたとの感慨があるのも事実です。

振り返ってみると、私が司書になった頃は、お互い助け合いながらも、短大図書館として自立し、職員がそのことを自覚し、実践しようという気運の時だったように思います。「私立短期大学図書館改善要項」の作成、「全国短期大学紀要論文索引」の刊行、『私立短期大学図書館協議会』の結成等々。そういう中で、「少ない」が形容詞につく予算、職員数、資料数の小規模図書館が、大学図書館でもなく、学校図書館でもなく、短大の図書館としてどうあるべきか考えたものです。

学生利用者をサービス対象として、誰でも気楽に入れる図書館、授業に直結した資料集め・資料提供、わかりやすい配架案内、図書館サービスの周知、学生サイドにたったレファレンス、参考図書・二次資料の使い方、新しい情報源である雑誌の利用など、みんなで試行錯誤を繰り返しながら、また先生方のご協力を得ながらやってきました。眼高手低の例えどおりというものもありますが、学生の実態に即したサービスを合言葉に、ある時期は入館者数や貸出数を大幅に伸ばしたものです。こういうことに思い至り、継続できたのも、この協議会での出会いのおかげで、多くの人からの助言、ノウハウ伝授や情報提供等々、精神的支援も含めての結果です。

今回の協議会20周年ということで、改めて年数を感じ

歓喜の象徴だった。図書館はそうした歓喜をシンフォニックに響かせる場所だった」(日本図書館協会の百年1892-1992)と述懐しています。これは単なるノスタルジーではないことを心に留め置きたいと思い、最後に引用させていただきます。

福岡女子短期大学図書館 下 條 瑞 恵

たのは、今春、鹿児島での九州地区総会・研修会で、準備段階から知っている方が少なくなったこと、かつてリーダー館であった東京女子短大と「牟礼」の存在を知らない人がほとんどで、自分の年齢を忘れて、愕然としたものです。準備段階から精力的に動かれて、九州地区の結成に尽力された西南の村上さん、ニューズレター、雑誌総会目録の刊行に努力なされた長崎純心の平湯館長、図書館職員である意義を説かれた鹿児島の伊藤館長、加盟館増加に努められた東筑紫の森田さん、退職され、面識のある方のお名前を挙げましたが、こういう活躍を支えられた、それぞれの図書館職員の協力・努力の賜物であることは勿論です。私共の図書館も、平成4～5年度に会長館を努め、充分な事はできませんでしたが、以前の熊本学園さんが作成されたものを基に、かつての会長館のご協力を得て総会一覧、役員館一覧、加盟状況一覧という三通りの年譜を作成したのも、人の交替もあり、わからなくなることを危惧してのことだったと思い出します。

20周年という節目の今日、短大や図書館が大きく変身せざるを得ない状況と、また、情報提供については、学情参加やインターネット利用で大学との格差が以前よりも縮まった環境のなかで、図書館職員の意識が問われ、短大図書館の在り方やサービスの多様化を、今までの蓄積の上に再構築する必要性を思います。

未だに、図書館大好き、短大大好きといえる身を幸せに思いますし、このことは、内外の多くの方々への多大な恩義を蒙っていることを痛感します。有り難うございました。

私と北海道地区協議会

元北海道武蔵女子短期大学付属図書館 若 松 直 子

この度の私立短期大学図書館協議会創立20周年記念功労賞の受賞は私にとって思いがけないことで、感慨もひ

としおでした。数年来、足を不自由にしておりまして、平成9年3月末に長年、勤務した北海道武蔵女子短期大

学を退職いたしました。現在、足の治療に専念しているところです。記念式典には残念ながら出席出来ませんが、受賞はこれからの大きな励みとなります。本当にありがとうございました。

私立短期大学図書館協議会北海道地区協議会（以下、北海道地区協と略称）は昭和54年4月に設立されました。加盟館は13館（現在21館）、初代会長は北海道武蔵女子短期大学坂本龍三教授、そして北海道武蔵女子短大図書館は設立から8年間、事務局を担当いたしました。毎年、講習会・研修会を開催し、昭和59年6月には加盟館所蔵「逐次刊行物総合目録」を発行いたしました。その後、この目録は平成元年に補遺版が刊行されています。

設立当初、どの図書館も少ない人員で運営されていた（この状況は今もそれ程、変わっていない）、同じような課題を抱えていました。この頃に、北海道地区協の総会・研修会で知り合った人たちが、電話一本で相談し合える自然発生的な人的ネット・ワークが形成されていったように思います。こういう横の繋がりの中から、昭和63年には同じパソコン・ソフト「LIBROS」を使っている加盟館6館（現在8館）が集まって「北海道図書館業務

機械化研究会」が発足しました。

さらに、平成5年9月に札幌で開催された全国図書館大会の短大分科会は、事例発表・司会・受付・記録・運営など、北海道地区協の加盟館総力を挙げての連繫・協力体制のもとで行なわれました。開催の前の年から、この分科会の運営に係わった私は、長年、北海道地区協で培われた基盤の上に立ってこそ、成し得たことに深い感動を覚えました。

平成8年秋には、北海道地区協の中に、図書館利用教育をテーマとする研究会が発足しました。そして平成9年度から事務局は釧路短大図書館に置かれました。これで事務局は札幌市内およびその周辺の短大図書館から初めて離れたこととなります。釧路から新しい風が吹き込まれることと思います。

職を退いた今も、北海道地区協で親しくしていただいた方たちからお便りやお電話をいただくたびに、ほっとする温かさに包まれます。北海道地区協を通じて得たことを私の大切な財産とさせていただきます。

私立短期大学図書館協議会並びに北海道地区協議会のご発展を心よりお祈りいたします。

私立短期大学図書館北海道地区協議会の20年

坂本龍三

私立短期大学図書館協議会が結成されて20年が経過した。当時設立発起人の末席に加えられて戸惑いを感じたことを思い出している。北海道地区にはそれより数年前に自らの手で結成した北海道地区私立短期大学図書館協会があり、折しも一部からは、その存続を心配する声もあがっており、ひとり苦慮していた時期であった。

その後、1978（昭和53）年12月これを解消して、私立短期大学図書館北海道地区協議会をスタートさせた。発足間もない当地区協議会として初めて実施したのが、私短協初代会長のもり・きより先生による『NDC・新訂8版』のセミナーの開催（1979・9・21）であった。これには道内の各地の各館種から162名の参加があり、札幌で開かれた図書館の催事としては最大のものとなった。

このセミナーの成功によって発足間もない小さな組織の活動をひろく知ってもらうことができた。そのため、その後当地区協議会が主催するセミナーは他館種からも注目されるようになった。

やがて図書館界にはコンピュータ導入の波がおし寄せてきた。当地区でも1982（昭和57）年には、道内の図書

館界としては初の「マイコンによる図書館業務処理」のセミナーを開催した。このセミナーには、数十台の機材の調達の手配と設営、経費の援助に至るまで、すべては講師の片山喜八郎（国学院栃木短大）・渡辺敏一（東京女子大短大部）の両氏の援助なしには実現できなかった。当時を思い起し、両先生には感謝に堪えない。

セミナーは2日間にわたって実習をまじえて行われ、大きな成果をあげることができた。これを契機として、道内の短大はもとより、他館種の間にもコンピュータ導入についての関心が広まっていった。その後当地区協の加盟館も増え（発足当初9館）、今日では21館を数えるまでに成長した。そして加盟館のみならず、皆さんの努力と研鑽によって、近年は新たな研究グループも誕生していることは、私短協設立に参加した一人として喜ばしいことと思っている。

今後は、さらに広い視野にたって研修をかさね、私短協の活動をアピールすることを期待している。

（本稿は、「北海道地区協議会通信」19号1997. 4. 30刊の原稿に一部加筆したものである）

図書館は何処へ行く

北条常久

図書館というと私には二つの光景が頭に浮かぶ。

一 母校東北大学の旧図書館。天井が高く夏でも涼しい。大きな机、書庫に入ると万巻の書。テニスと麻雀に明け暮れていた私も、レポート提出のためなどでたまに、その机に座ると自分の不勉強ぶりが反省されたものである。

二 ソルボンヌ大学図書館。小牧近江というソルボンヌ大学に留学した文学者の足跡を求めて同図書館を閲覧した。大図書館で国会図書館ぐらいのフロアで閲覧者も多い。しかし、そこは静寂でまさに学問の殿堂という感にうたれた。本は天井まで積み上げられ、梯子をかけてそれを取る学生もいる。ああ、こんな世界で勉強してみたかったと思うと、すでにその時に中年になっていた私

にはやはり悔恨の情がこみあげた。

平成6、7年の2年、私立短期大学図書館協議会東北地区協議会の会長を勤めた。

図書館という物のイメージが一変してしまった。

それは、私も短大に勤務して長いので、ソルボンヌ、東北大学の図書館と現在の私短大の図書館を同列化しようとは思わない。

しかし、私短大の図書館の抱えている問題はあまりに瑣末で情けないことが多く、情報交換や細やかな研修などでは、どうにもならないというのがこの2年の私の率直な感想である。

私短図協の「会報」を担当して

東京文化短期大学図書館 川井 依玖子

私短図協創立20周年を迎えました。この20年という節目を、会員校として皆様とともに心より慶びたいと存じます。

この度は、本部役員として6年間「会報」発行に携わらせていただいた関係で、思い出すことなど記してみたいと思います。私の任期は昭和62年から平成4年まで、会報でいうと21号から32号にあたります。お引き受けし間もない22号（昭和63年）が創立10周年記念特集号でした。大事な会員の交流誌をきちんと編集できるだろうかという不安と前任者や他のベテラン役員の方達に支えられているという実感で、ともかくも一生懸命進めたものでした。記念式典や功労者の紹介、思い出等の記事で作った10年前を今度は、自分自身で振り返ることになりました。記念特集号にもきよし先生のお言葉は不可欠ですが、これがとうとう頂戴できませんでした。ご縁の深い方々のご協力もあって、一時は良い知らせに役員みんなで喜びあったものですが、本当に残念でございました。その後、体調を崩されたまま2年後、全国研修会の朝先生の訃報を耳にしなければならなくなったのです。先生もきっと感慨深いお気持ちを秘めていらっしたことでしょう。新規加盟館、会勢館数を掲載する時はいつも楽しい気分になったものです。一步一步、組織の地歩が固まり、広がっていく様子が数字で示されるせいで

しょうか。24号に加盟館一覧をまとめたことも、記念号の一環と云えます。以後、一覧の追補、会報1号から30号までの総目次等が通常の記事と異なる企画でした。紙面に工夫が足りないご指摘を受けたこともありましたが、結局、たいした知恵も浮かばないまま、力不足を痛感するばかりでした。

平成3年に施行された「短大設置基準」の改訂も、短大図書館界にとっては、新しい方向を考えさせられる出来事でした。会報の記事としてもすぐに取り上げたいと考え、幸い適任の執筆者を得て好評をいただきました。全国研修会の案内、開催報告、紀要「短期大学図書館研究」の原稿募集等の記事を組み込む時、毎年本当によく続くなあと感心したものです。役員による研修会のための参考図書搬入などはもう当然の仕事になっているという印象でした。また今も変わりはないことでしょうか、地区理事の方達のご協力振りには本当に感謝の気持ちで一杯になりました。こちらの決めた原稿締切日に合わせてどの地区もきちんと報告を送って下さって、苦勞した覚えがありません。こうした各地区のご努力がしっかり支えている限り、本協議会の発展は今後も一層のものがあると確信致します。あの20周年記念式典で受賞された功労者達の気負わないさり気なさが深く心に残ります。

東海・北陸地区図書館協議会を振り返って

大垣女子短期大学図書館 若山 光憲

1981年1月に大垣女子短期大学へ赴任して以来、16年の歳月が流れました。最初に当協議会と深く関わるようになったのはその年に、東海・北陸地区（当時29館）の雑誌目録を編集することでした。

当協議会は当時、愛知淑徳短期大学が会長を1978年以来続けられ、事務長の林勇一先生を中心に運営されてきました。

ところが、1985年4月に林先生が逝去され、次期会長校をどこにするかが大きな問題として残りました。急遽、第1回幹事会が5月16日に開かれ、①図書館専任職員4名以上の館より適任館を選び、1期（2年）毎の輪番制をとることを決定。②適任館として、4館を選出。次に7月5日、第2回幹事会が開かれ、①会長校より適任各

館の意見と事情を報告。②学内事情により一宮女子短期大学を適任館より除く。③下記の順番で会長校を依頼する。第1案：大垣女子短期大学、第2案：3校（大垣女子、東海学園、名古屋）で話し合って決める。

そして、7月11日に本学へ次期会長校の就任依頼がなされ、8月26日には次期会長校を引き受けることを内諾するまでの数ヶ月間は、課内で話し合い、不安と焦燥に駆り立てられながらの毎日でした。

しかし、いま振り返ってみるとこの輪番制になって十数年がたって順調に協議会が運営されていることは会長校ならびに幹事校の努力の賜ではないでしょうか。

最後に、当協議会がさらなる発展をするように加盟館一同で助け合い、協力しあっていきましょう。

20周年おめでとうございます！

前川和子

私立短期大学図書館協議会創立20周年、誠におめでとうございます。永い年月を集い盛り上げた会員の皆さんと、組織を支え引っ張ってくださった、地区理事の皆様や中央事務局の皆様、心より感謝の気持ちとおめでとうを申し上げたいと思います。そして、この20周年特集に文章を書かせて頂くことを、光栄に思っております。

20年前近畿地区の地区理事を依頼され、自分の実力も省みずお受けしたのは、短期大学図書館に働くたくさんの方々にお世話になった感謝の気持ちと、更に短大図書館の連帯とレベルアップを望んだからでした。10月の設立から第1回目の近畿地区研修会まで、夢中の毎日でした。実際蓋を開けてみると、第1回の研修会にはたくさんの方々に参加していただきました。第1回目の講師として東京から来てくださった安部先生を囲み、当時それぞれが抱えている問題を熱心に討議しました。

組織が存続するためには、参加して下さる皆様と共に、組織をお世話して下さる方が不可欠です。近畿地区協議会では、次々にその役をお引き受けして下さる方に恵まれたのは、この上もなく幸せなことでした。私の次に「前川さんが助けてくれるなら」と引き受けてくださったのは、帝塚山学院短大の瀬古輝子さんでした。彼女の活躍は素晴らしく、当時講師にお招きした丸本郁子先生の講演に触発され、近畿地区で「雑誌目録」を作り上げたのでした。第3期の平安女学院短大時代には井

上宏二さんを中心に補遺版を、第4期神戸山手女子短大時代には八田義一さんが中心になって全国図書館大会短大・高専図書館部会を見事成功させました。第5・6期の帝塚山短大の時は、高濱洋一さんを中心にして、「雑誌目録改訂版」が作成されました。その間、奈良佐保女学院短大の仲井道子さん、大阪女子学園短大の坂上恵子先生はいつも近畿地区を支えてくださいました。当時研修会の後よく集い、大いに短大を語りあった時、“希望の星”といわれた谷嶋正彦さんが、今近畿地区の理事常野トシ子先生を助けてお世話してくださっているのは、大変嬉しく、時の流れを感じる次第です。

8年前、大谷女子大学図書館に移り、館員と共にオフィスコンピュータLICSUを導入しました。その導入の下地には、短大時代片山喜八郎先生達から学んだリプロスがあったと思っています。そして、短大図書館が日本の図書館界に上げたともいえる利用者教育は、私の図書館サービスの目標でもありました。

今年2月、近畿地区研修会に呼ばれ、大学における自己点検・自己評価についてお話しましたが、熱心に研修会が継続されていること、沢山の皆さんの参加に、胸が一杯でした。20年の私短協が築き上げたネットワークと知識と経験の蓄積を宝に、更に発展されますよう、新しい情報の時代を乗り切り、短期大学として困難な時代が打破できるよう心からエールを送りたいと思います。

思いだすままに

樋口日出雄

私が私立短期大学図書館中国・四国地区協議会で理事を担当させて頂いた頃から今日に至るまでの歩みの一端にふれてみたい。

当時(86~87)、各館共通の話題はコンピューター化であったため、年次総会の席でもそのプロジェクトに取り組むためのモデル案が提示される事が多くあったように思う。

書誌を中心にデータベース作成がまず取り組みの一步であって、その後は各館が独自のペースで進むことが必要となり、おたがいにそのための情報交換を目指して一堂に会することがたび重なっていくという順序ではなかったかとおもわれる。

その後95年のマイクロソフト社によるウィンドウズ95の発売を期して、個人ユーザーによるパソコン購入ブームが起こり、インターネット経由で個人がリファレンス作業を実行できる事態となり、図書館側としては、いかにインターネット経由のデータ(ホームページ)と競合していくかという問題をかかえこんで現在に至っている。

館内の端末からインターネットのEメールによる文書連絡など、情報のやりとりの分量は多くなる一方だが、送・受信の速さの利点は、それを補って余りあるものがある。

思えば、当時のコンピューター化をめぐる熱意はインターネットが利用できる今日をまって、ようやく開花期

を迎えたといえよう。各館の活動に地域社会とのかかわりが増してきたことも事実であり、その面での成果も当然広い分野で問われている。

20年をひとつの節目として、本協議会に連なる各館がますます発展されることを願って、思い出を綴った次第である。

もう一つの図書館利用

東筑紫短期大学図書館長 室井 廣一

図書館はたくさんの情報を貯蔵し、利用を待っている。それは毎日さまざまな目的によって使用されている。具体的目的の為に図書館を訪れる人々の顔にはある種の共通性がある。ところが時に特定の目的を持たないでフラリとあるいは漠然とこの世界に入って来る人もいる。特定の目的世界から拒絶された人だ。特定の目的空間から締め出され、大学の空間に自分のいる場所を見失い緊急避難した人々だ。今どこにいったらいいのか、どうしたらいいのか、この所在なさ、この閉塞感、こういう時ある種の人々は図書館に緊急避難するのだ。図書館は目的喪失者の回復空間でもあるのだ。人生や青春を夢遊する空間なのだ。具体的必要性だけで満ちる世界ではない。そういう点で開架式図書館はいいものだ。目的もなくおびただしい図書の海をながめているだけで、どんなに心が落ち着いてくるものか。背表紙がいざなう未知なる世界は、閉ざされた心を自然に押し広げてくれる。大学図書館ではこういった学生たちを包み込む寛大な受入れ体

制がなければなるまい。たった一人でゆらぎ浮遊する魂をどうしても見つめねばならぬ人達に自由な空間を与えてやらねばなるまい。

図書館は異界でもあるのだ。少なくともそこに通じる秘密の抜け穴をもっているのだ。機械化され、ネットワーク化された整然とした装いの影に、不気味な抜け穴が裂け目が異界に向かって走っているのだ。無論目的を持ってここに来る人のなかにもその道を見つけ出す人もいるだろう。ごく一部の司書がこの抜け道を垣間見ている。そういう司書は一見無目的に来館した人にたいしても「扱い」というものを心得ている。レファレンスも案内も要らぬストレンジャーを知っているのだ。どこの図書館でも司書の募集をすると、たいしてよい労働条件でもないのにかなりの応募者があるというが、どうやら若い志願者たちは、潜在的にこの秘密の抜け穴の存在を察知しているようだ。

私立短期大学図書館協議会創立20周年記念出版物

1 「私立短期大学図書館総覧」1996

私立短期大学図書館協議会編集・発行 1996. 11. 1
発売：紀伊国屋書店 7, 210円（本体価格7, 000円）

2 「私立短期大学図書館協議会20年小史」1996. 5. 16

私立短期大学図書館協議会編集・発行

3 「短期大学図書館研究」第17号 1997. 7. 31

特集：創立20周年記念特集号

目次

I 特集 私立短期大学図書館協議会20年の歩みと21世紀への展望

第1部

本部	菅原 春雄	1
北海道地区	若松 直子	6
東北地区	菅並 茂樹	8
関東・甲信越地区	入江 忠昭	10
東海・北陸地区	加藤 正弘	12
近畿地区	谷嶋 正彦	16
中国・四国地区	田中 雅信	19
九州地区	吉田 良子	21

第2部

21世紀の短大図書館を考える

—加速する情報化の要求に押されて—	松井 将子	25
短期大学図書館にネットワーク化がもたらすもの	川崎 千加	33
嵯峨美から発信—日本図書館工学会		
近畿地区館としての歩みと展望—	淀川 裕美	39

II 一般論稿

岡田健蔵と啄木文庫	坂本 龍三	45
図書館という場所—その聖性について—	高梨 章	51
長野県の公共図書館—特殊コレクションを中心とした—	丸山 信	65
名古屋聖霊短期大学図書館の利用状況について（続報）	水野 壽子	77
Internet initiatives in the United States:current connectivity, planning for implementation, and potential uses for libraries	Michelle Reinert	83
（アメリカの図書館におけるインターネット導入の動き—現在の接続状況, 実用化への構想, 将来の利用法 ミシェル・ライナート著 永正理恵子訳		87）

III 全国研修会報告

参考業務と書誌—調査用具としての書誌—	東田 全義	91
社会福祉—「しあわせ」の学問を支えるために—	松澤 実	97
環境問題—環境情報へのアクセス—	佐藤 雄也	105
付：演習問題一覧		111

4 「私立短期大学図書館協議会会報」第41号

私立短期大学図書館協議会発行 1997. 9. 1
内容：平成9年度総会および創立20周年記念特集